

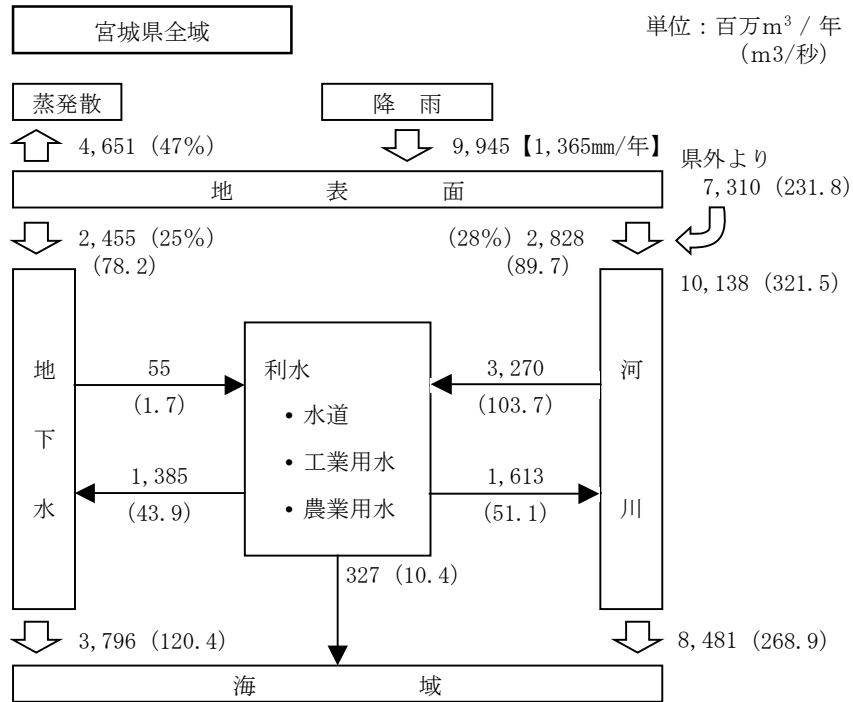


現況把握 流域（行政区域）の現況

行政区域面積 : 約 7, 290 km<sup>2</sup>



水収支図は以下のとおり。



課題

①清らかな流れ

- ・水環境基準の不達成  
河川の水質は良好だが、閉鎖性水域では水質環境基準を達成していない。
- ・富栄養化  
閉鎖性水域においては富栄養化現象が見られる場所がある。

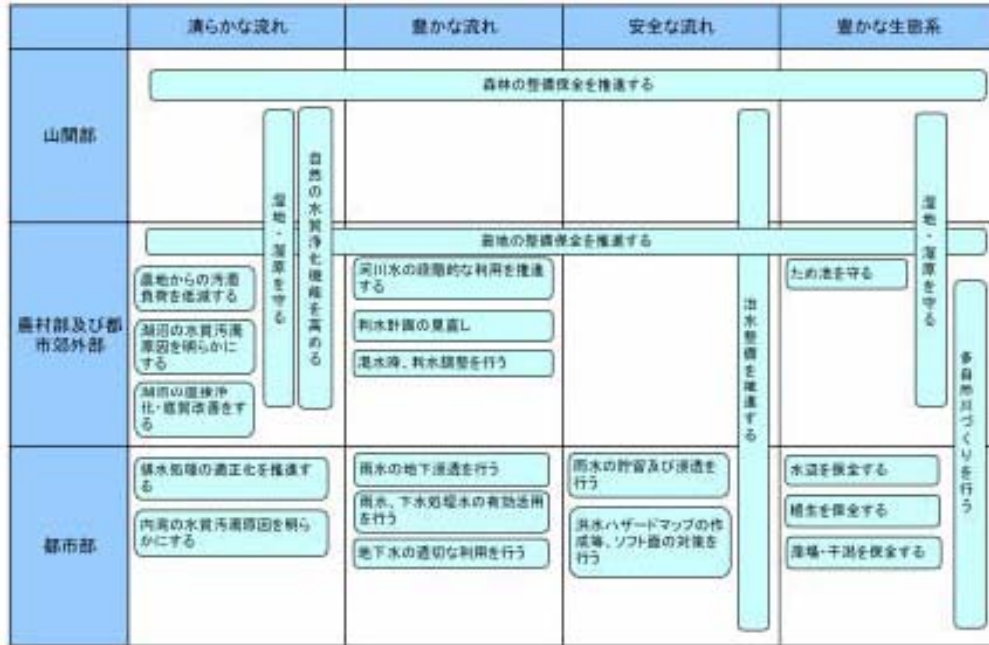
②豊かな流れ

- ・流出率の増加  
森林や農地の保全整備を行うことと、森林や農地の機能を利用して地下水涵養を行う必要がある。

	<p>③安全な流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・治水            今後は河川整備率の向上を図っていく。</li> <li>・雨水浸透の推進            森林及び水田の持つ保水能力で雨水を浸透させたり、都市部で貯留施設や浸透施設を設置して雨水等の流出速度を遅くする。</li> </ul> <p>④豊かな生態系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系の保護            森林・農地・身近な水辺環境等が本来有する自然循環機能が発揮されるようにする。</li> </ul>
<p>対策の方針</p>	<p>対策の基本方針</p> <p>『私たちはこれまで、それぞれの場における水質改善を行うことに主眼をおいて取り組んできましたが、水は循環する特性をもっているものであることから、このような限定的な取組では、総合的な問題を解決するには不十分でした。</p> <p>これらの問題を解決するためには、これまでの「場の視点」に加えて、山間部、農村部及び都市郊外部、都市部といった地域内のみならず、これらが互いに連携することや、施策間の連携を図ることが必要です。</p> <p>健全な水循環の保全に向けて大切なことは、水質、水量、治水、生態系が互いに良好な状態を目指すとともに全体のバランスを良好にすることにあり、これらの指標について評価の低いものから取組を進めることが必要です。</p> <p>評価の低い要因を究明するとともに、その解決に重点を置いた施策を優先させます。』</p>

具体的対策の概要

①具体的対策の概要



策定時の住民の関わり

①住民アンケート

県住民(無作為抽出による 2,000 人)および、水と関わりが深い民間団体、NPO 法人の意識と取組について郵送アンケートを行った。

住民による回答の結果：

1)水循環を取り巻く諸問題への関心

水質汚濁の進行、緑地・水生生物の減少、渇水の発生などへの関心が高い。

2)日常の水利用に関する取り組み状況

洗濯時のまとめ洗い、シャワー等の節水の実施。雨水利用への関心が高い。

3)身近な水辺環境の現状

散歩、魚釣り・魚とりが多い。

4)これからの水循環に関する取組

水を汚さない、水を大切に使う、水辺の清掃活動など。

また、民間団体、NPO 法人の活動に関しては人材育成、取り組みへの県民・地域のさらなる参加、行政の支援などが課題として挙げられている。

また、民間団体および NPO 法人には活動内容および現在の活動における課題を調査し、取組みを継続させていくための人材育成、県民・地域の更なる参加、行政の支援などの課題が回答として得られた。